

手術部

手術室数

19室 (HOR手術室、MRI手術室含む)

看護師数

看護師長 1 名、副看護師長 5 名、看護師60名

主な手術

年間約8500件の手術を提供しています。

心臓血管外科手術（弁膜症、不整脈、虚血性心疾患、大血管手術など）、脳外科手術（腫瘍、脳血管、下垂体、脊椎手術など）、消化器外科手術（肝胆膵、食道、胃、大腸手術など）、移植外科手術（腎移植、肝移植手術）、呼吸器外科手術、乳腺外科手術、産婦人科手術、泌尿器科手術、整形外科手術（膝、足、手、肘、肩、脊髄、骨・軟部腫瘍、外傷手術など）、耳鼻科・頭頸部手術、眼科手術、皮膚科手術、小児外科手術、顎・口腔外科手術、ロボット支援下手術（泌尿器科、婦人科、呼吸器外科、消化器外科）など、低侵襲かつ難易度の高い手術を提供し高度先進治療の最前線であると言えます。

看護の特徴

手術看護の特徴は、手術を受ける患者の術前から術後を通して、手術という大きな侵襲から患者が合併症を起こさずスムーズに回復し、社会生活に復帰できるよう援助することです。診療科医師、麻酔科医師、薬剤師、臨床工学技士など他職種と連携し、手術を受ける患者の権利を理解した上で手術が安全かつ円滑に進むよう、患者の全身状態の観察や急変時の対応を行います。

術前診療では、問診によるADL、既往歴、内服薬（術前中止薬）の確認、アレルギーの有無、義歯・動揺歯の確認、手術体位に関連した関節可動域の評価、術前オリエンテーション（術前準備、手術室入室～退室までの流れ）、麻酔の説明（方法、合併症、偶発症）、術後疼痛管理についての説明を行い、周術期の状態をアセスメントし、必要な説明と指導、心理的支援を行っています。

術中は、器械出し看護師と外回り看護師に分かれ、各診療科の特徴や術式に応じた診療の補助を行いながら、体温管理や皮膚障害の予防など2次的合併症の予防に努めています。

また、術後は、麻酔科医師・薬剤師・臨床工学技士と共に、術後疼痛管理チームとして疼痛管理を行い、早期離床の促進、合併症予防を行っています。

